

令和6年12月19日

鶴岡市長 皆川 治 様

鶴岡市議会議長 尾形 昌彦

市民との意見交換会で出された意見・要望等について（送付）

本市議会では、令和2年度から議会の市民理解の促進と市民からいただいた意見を施策に反映させていくことなどを目的として、4つの常任委員会ごとに「市民との意見交換会」を開催しております。

令和6年度に市民からいただいた意見・要望等について、各常任委員会にて協議した結果、別紙のとおり整理、集約しましたので、参考までにお送りいたします。

なお、この意見等は、市議会ホームページで公表する予定です。

【総務班】 令和6年8月21日（水）開催 テーマ：本市の二次交通の未来と日本版ライドシェアの可能性について

■参加者：鶴岡市内の山形県ハイヤー協会会員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>【本市におけるタクシー業界の現状と課題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低賃金は年々上がり、タクシーの需要が減る。働き方改革として営業時間を短縮。24時間営業は従業員を増やさないとできない。年々売上も下がっている。 ・タクシー料金は昨年15年ぶりに値上げをした。賃金は毎年上がり、15年前と比べ車両経費は1.5～2倍、燃料費は3倍、人件費も約2倍となったが、料金の値上げは10.3%。距離を短くして料金を下げる工夫をしている。1.5kmで690円～700円だった料金を、1.2kmで620円まで下げたため、近い距離の人は料金が下がっている。 ・障害者割引の10%分は会社負担であり、給料1人分に相当する。せめて割引分は、国・県・市で負担してもらいたい。 ・庄内空港からの利用者はほとんどいない。 ・4年前から夜間の営業をやめ、受付は7時～21時としている。 ・朝日と榊引地域は代行の需要が多く、夜は予約のみの運行である。 ・安全上、夜に運転できない高齢の従業員もいる。 	<p>各会社の規模や現状をお聞きする。</p>	○			<p>夜間の営業は、どの会社も時間短縮をしているのが現状である。</p> <p>働き方改革と従業員の高齢化が要因であると考えます。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【総務班】令和6年8月21日（水）開催 テーマ：本市の二次交通の未来と日本版ライドシェアの可能性について

■参加者：鶴岡市内の山形県ハイヤー協会会員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>【日本版ライドシェアの可能性について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライドシェアが可能な車両数は、営業区域内の車両数の5%までとなっているため、鶴岡市の場合最大で4台しか登録できない。 ・夜の飲み会で電話が来るのが、11時から12時頃で、それ以降はない。夜中まで飲んでいる人はいなくなった。コロナ禍で家飲みが定着した。金・土曜日でも夜の2時になれば電話は来ない。ライドシェアが必要なのか疑問である。 ・東北でライドシェアをしているのは、仙台交通圏と青森県内の1社だけである。青森県の成長タクシーは、事務方や役員も運転手であり、会社の車を白ナンバーに変えている。仙台では数名の応募があったが、条件を話すと拒否され、結局は1人しか残らず、仙台交通圏でライドシェアの車両は、今年の6月～8月の間では、1週間に1回も運行していないようである。 ・市内では、タクシーの需要が減っている状況であるのに、ライドシェアが参入してくると、会社経営はさらに死活問題となる。 ・ライドシェアの運賃は、事前確定運賃（メーター料金ではなく、最初に指定された運賃）だが、鶴岡には、まだ、タクシーアプリの会社は参入していない。事前確定運賃の場合は大通りを走る計算になるので、メーター料金のタクシーに比べ、料金は高くなる。 ・今のライドシェアは、タクシー会社が主体だが、将来はアプリ会社が主体になると考えられる。タクシー会社がやらないと、ウーバーが参入してくる。それをさせないために、現在はタクシー会社が運営している。 	<p>自治体がタクシー会社を支援する「石垣版ライドシェア」について説明。</p>		○		<p>日本版ライドシェアについては、本市ではアプリの問題など、受け入れる準備はできておらず、またタクシー業界としても必要性を感じていない状況である。</p> <p>ただし、内陸では利用できて、庄内地方では利用できない配車アプリに関し、石垣市ではアプリ業者と協議して負担の掛からない形を模索しているとの説明があったため、その内容を共有した。</p> <p>石垣市のように、行政とDiDiやGOなどの配車アプリ業者の協議による今後の支援については、可能性があると考えます。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【総務班】 令和6年8月21日（水）開催 テーマ：本市の二次交通の未来と日本版ライドシェアの可能性について

■参加者：鶴岡市内の山形県ハイヤー協会会員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>【インバウンドなど観光客の利用とオーバーツーリズムについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タクシーは、通院のための利用者が中心で、観光やインバウンドではバスの利用者が多い。 ・庄内空港から羽黒山に行く外国人は少なく、仙台空港から貸切バスで行く人が多い。鶴岡には宿泊せず、通過地点に過ぎない。観光地に外国人が何人歩いているか見れば分かる。他県の観光地では外国人を見かけるが鶴岡では見かけない。台湾からの旅行客は旅行会社とタイアップしてタクシーを使っているが、鶴岡ではインバウンドでタクシーが足りないという状況ではない。 ・石垣島のオーバーツーリズムの話を知ると大変羨ましい。それだけの需要があれば、従業員の処遇改善ができる。会社では観光に対して力を入れているが、観光客がまだまだ少ない。交流人口を増やし、たくさんの人から来ていただきたい。 	<p>月山8合目から登って湯殿山に降り、湯殿山でタクシーを拾って8合目に置いてある自分の車に戻ってくるといいう「月山フォーラム」の企画で、庄交ハイヤーを見た。</p> <p>2人で利用して金額は1万6千円と少し高かったが、良かったと感じている。タクシーならではのサービスだと思うがまだまだ周知されていない。</p>		○		二次交通の利用客拡大のため、一次交通（飛行機・電車）から二次交通（タクシー等）へつなげることも課題の一つと考えられる。
<p>【夜間のタクシー需要について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食店からタクシーが来ないと言われるが、依頼が毎日あるわけではなく、月に何度もない。一次会で家の人が迎えに来る。二次会、三次会に行かないことに慣れてしまっている。飲み会の帰りは10分以上も待たされる。車が少ないのに待たされるため、ますます採算が取れない。 	<p>夜の飲み会では、タクシーがない、代行がないという声がよく聞かれる。</p>	○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【総務班】 令和6年8月21日（水）開催 テーマ：本市の二次交通の未来と日本版ライドシェアの可能性について

■参加者：鶴岡市内の山形県ハイヤー協会会員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
<p>【高齢者の移動手段の確保について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の7時から10時まではタクシーの予約が取れない場合があり、午前中の通院に利用するタクシーの台数が非常に不足している。市街地周辺部からの通院に対する対策を取ってほしい。 免許返納者への助成はあるが、もともと免許を持っていない人にはない。免許返納者への市の助成は、最初は1万円の補助だったが、返納者が増えたためか、5,000円に減額されている。 高齢者へ市独自の補助があっても良いと思う。会社独自で高齢者割引を行っていたが、経営を圧迫するため割引をやめている。 二次交通ではドアツードアのタクシーに目を向けてもらいたい。市街地の620円の路線は、タクシーを自動運転化し、市街地周辺部の高齢者にはタクシーが必要ではないか。 一人暮らしの高齢者に必要な移動手段をどう確保するのか。高齢者の割引券を市に何度も相談したが、応じてくれなかった。買物が必要だが移動手段がない。タクシーを使える仕組みができれば会社も車両台数を増やし、運転手も増やすことができる。 車椅子やストレッチャー対応の車両が足りない。運転手が介助する時間と労力が必要だが、料金は同じ620円である。採算が取れないのでやめたいのが本音であり、行政の支援が必要である。 車椅子やストレッチャー対応の車両を利用する方は通院の時間帯が多く、時間をずらす仕組みが必要である。年金支給日に銀行で出金する時間帯が集中するので、分散化する仕組みが必要である。フレックス勤務が浸透すると通勤による混雑は減ると思う。 	<p>平日の午前中はタクシーが混み合う一方で他の時間帯は空くため、簡単に増車はできないとのことだが、混み合う時間帯に乗れない人への対応は必要である。</p> <p>高齢者が運転免許証を返納して、代わりにタクシーを利用する場合、生活経費が上がってしまわないか、不安の声を聞く。</p> <p>合併前の旧藤島町には高齢者（75歳以上）ハイヤー券があって、一人12枚を交付していた。免許証があっても公平に交付し、タクシーの需要が生まれた。合併でサービスがなくなり、多くの不満の声があった。</p>		○		<p>タクシーの需要はあるが採算が取れない場合が、多々あるようである。</p> <p>病院への送迎などで、日中のタクシー需要は高いが、応えられない場合もあるとのことであった。ここへのライドシェアの可能性はないか。</p> <p>また、高齢者への市独自のタクシー割引や支援、車椅子やストレッチャー対応の車両への行政支援について、検討すべきではないかと考える。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【総務班】 令和6年8月21日（水）開催 テーマ：本市の二次交通の未来と日本版ライドシェアの可能性について

■参加者：鶴岡市内の山形県ハイヤー協会会員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
<p>【その他の課題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間に救急車で病院へ運ばれた人が、帰宅する場合に移動手段がないという問題がある。ライドシェアでの解決は難しいと思っ ているが、各地域で事情が違っているので、臨機応変に行政と寄り添って、市民が利用しやすい二次交通というものを考えていきたい。 			○		<p>病院からの帰宅時の移動手段については、行政として対処したほうが良いのではないかと考える。</p>

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	選択理由等（自由記載）
<p>【タクシー業界に理解を示して欲しいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の様々な規制の下で経営してきたが、ライドシェアによる白ナンバーの運行というのは、規制を強化してきた同じ行政が言うのはおかしいのではないか。 ・乗務員が少ないため空車が多い。 ・タクシーは料金が高いというが、なぜ高いのかを考えてほしい。タクシーは毎年車検があり、自賠責保険も高い上に様々な法令によって拘束されている。自家用車の維持費用とは違う支出があり、乗客の命を運ぶ大切な仕事をしている。 ・タクシー運転手の平均年齢は65歳で、50歳以下は少ない。土・日は休みでなく、年収300万円に満たない現状では、タクシードライバーになる人はいない。稼働率を上げて利益を上げ、ドライバーの収入が増える仕組みができれば、タクシーの仕事は魅力のある仕事である。 			○		<p>タクシー料金について、安全で確実なことを考えれば、現在の料金体系は妥当である。</p> <p>タクシーの運転手不足や高齢化に対しても、行政としての支援や対応が必要と考える。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【市民文教班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：部活動の地域移行について

■参加者：民間クラブ関係者等

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>①部活動改革に関する情報不足</p> <p>○現在、地域移行の過渡期の中で、進め方について悩みを抱えている等、「情報不足」に関して様々な意見があった。</p> <p><u>以下、参加者からの具体的な意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体として、どう地域移行を進めていくのか方向性が明確でないため、それぞれの地域でどう進めていくのがベストかわからない。制度や仕組みもわかりにくい。 ・家庭の経済格差にかかわらず、子どもが活動できることが部活動の最大のメリットだったと思う。しかし、今後、学校の部活動が廃止される方向にあるのか不透明な状況なので、地域移行しようとしても非常にやりにくい。 ・地域移行に関して、情報が不足している。同一種目で他の学校と合同のクラブを作るにせよ、クラブ立ち上げはどう進めればよいか、何の資格が必要なのか等、市から情報提供してほしい。 ・県と市、各教育現場、中体連では、同じ情報を持っているはずなのに、それぞれの団体で理解度が異なることから、情報共有に問題があると感じる。また、民間団体に、しっかりとした情報が提示されていないのに、「民間で頑張る」はおかしい。各教育現場と教員個人もしっかり理解を深めてほしい。少なくともこの移行期に関しての情報は共有すべきである。 				<p>○</p> <p>国の方針もさることながら、本市としての方向性を主体的に定め、子ども、保護者、指導者など市民に広く周知していく必要があるのではないかと考える。</p> <p>種目や組織、立場により、情報格差があると感じる。少なくとも現在の移行期においては、現場任せにせず、行政として共有すべき情報を整理し、議論の場を設定すべきと考える。</p> <p>情報提供の充実・改善を求めたい。</p>	

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【市民文教班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：部活動の地域移行について

■参加者：民間クラブ関係者等

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>②部活動数の減少</p> <p>○生徒数の減少やクラブチームへの移籍等に伴い、学校における部活動は、存続が厳しい状況にある。</p> <p><u>以下、参加者からの具体的な意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール部は9人いないと活動が難しいが、指導している中学校のソフトボール部員は現在6人しかいない。また、校内での勧誘の機会もない。 ・指導している中学校の吹奏楽部員は3人しかいない。地元の小学校には金管バンドがあるが、中学では美術部に入る傾向がある。 		○			<p>市内の子どもの数が減っている中、各学校の生徒数が減少するとともに人数的に存続が難しい部活動も増えている。民間クラブチームの存在、種目別の事情、運動系と文化系の違いにも目を配る必要があると考える。</p>
<p>③指導者の確保</p> <p>○指導者が不足している。</p> <p><u>以下、参加者からの具体的な意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技経験のある保護者に指導を依頼し、活動をしているが、そうした人がいなくなれば、部活動が消滅する可能性がある。 ・土日の活動において、保護者会では見守り程度しかできていない。しかし、保護者会がなければ土日の活動もできなくなり、部活動が消滅してしまう可能性がある。そうなった場合、活動を受け入れるためのクラブを作らないと、生徒は試合に出場できなくなる。 ・吹奏楽部でも指導者確保が急務である。潜在的には経験者がいるはずだが、「指導」の経験をしたことがない人が多い。 			○		<p>指導者不足はどの団体においても共通の課題であると感じる。その地域の中だけでは人材を確保することが難しいため、広域での人材データベース構築が必要ではないかと考える。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【市民文教班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：部活動の地域移行について

■参加者：民間クラブ関係者等

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>○外部指導者の報酬が低いという現状がある。</p> <p><u>以下、参加者からの具体的な意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員としての籍もあることから、競技に関する活動は、月に計60～70時間している。なお、外部指導者としての報酬は、以前の3分の1である1万円/月額に減額している。 ・金管バンドの指導を週に2回して、報酬は年間で1万円である。 		○			活動に見合った報酬の在り方について、課題があると考えます。
<p>④活動場所・備品の確保</p> <p>○これまでの部活動では、体育館などの学校施設を無料で使用していた団体が多かったが、地域移行が進むにつれ、活動場所の在り方が多様化し、新たに活動場所や備品を確保する必要が発生している。</p> <p><u>以下、参加者からの具体的な意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のグラウンドを借りられないわけではないが、団員はそれぞれ別の学校に所属しているので、いろいろな場所を借りる必要がある。特に冬場が週1回確保できるかどうか、心配である。 ・吹奏楽クラブのようなものを生涯学習センターでやれないか模索している。 ・練習場所の確保が難しい。また、使用料も負担になっている。 ・練習場所と時間の調整に課題を感じている。卓球台は、施錠されている校舎にあり、台の移動に苦労している。 			○		地域とのつながりが薄く、複数の学校にまたがるクラブの場合、活動場所の確保がより難しくなっていると感じる。そんな中、学校の垣根を越えたクラブが、生涯学習センター等の施設で活動できることは望ましいことと考えるが、活動場所に必要な設備や備品がない場合、学校から移動しなければならない等の課題が発生する。さらに、使用料が、新たな負担になっているため、対策の検討も必要と考える。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【市民文教班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：部活動の地域移行について

■参加者：民間クラブ関係者等

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
○スキー競技は、練習場所の確保に苦慮している。特に昨年は雪不足で、複数の市営スキー場のシーズン券を購入しながら練習をしていたため、保護者の負担が増大した。保護者の負担を軽減するために、共通シーズン券の発行や補助等はできないか。			○		昨年度スキー場の料金改定を行っているが、若年層の更なるスキー利用拡大に向けて、3スキー場の共通シーズン利用券など検討の余地があるのではないか。
○文化部は音楽室など体育館以外で活動しているが、警備の関係もあって土日に使用しづらい学校が多い。			○		セキュリティなどクリアすべき課題はあるが、学校の体育館以外の場所の開放を進めてはどうか。
⑤生徒の安全確保 ○活動の際の生徒の安全確保について、対応への不安や環境整備に課題を感じるとの声があった。 <u>以下、参加者からの具体的な意見</u> ・ケガや熱中症になった場合など、保護者だけで対応しなければならない場面を考えると不安がある。AEDの使い方も分からず、配慮が必要な子どもへの対応にも負担を感じている。 ・熱中症対策として、中学校以外の体育館に冷風機が配備されていないことは問題だ。			○		子どもの生命に関わる事項であることから、消防本部と連携しての保護者向け救急救命研修などの実施も検討すべきと考える。また、安全な活動のため、全ての活動場所における熱中症対策に留意する必要があると考える。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【市民文教班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：部活動の地域移行について

■参加者：民間クラブ関係者等

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>⑥保護者の負担増</p> <p>○生徒の活動に際しては、保護者の協力が欠かせないが、運営面や費用面などで、様々な負担を感じているとの意見があった。</p> <p><u>以下、参加者からの具体的な意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土日や平日の17時以降は、保護者会活動となり、体育館等の鍵当番を保護者会で担当しなければならないが、保護者の立場で土日の鍵当番をしなければならないのは大変である。 ・クラブ運営には、施設費や移動費など様々な経費がかかる。活動資金を賄うために、各家庭の負担は以前の2～3倍に増えている。その他、活動場所までの移動費や食費にも経費がかかる。 ・地域移行に伴い、部活・地域・クラブに所属することになり、3つの団体の活動費を払っている家庭もある。 		○			部活動の地域移行に伴う費用面について、調査・分析した上で、行政としても具体的支援を強化する必要があるのではないかと考える。
<p>⑦理想像・あるべき姿</p> <p>○現在、地域移行の過渡期中で、理想的なあるべき姿について、様々な意見があった。</p> <p><u>以下、参加者からの具体的な意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意向に応じて、学校生活と両立した形で、スポーツや音楽等を安全に楽しく活動できる機会を確保してあげたい。 ・子どもたちが学校時代だけでなく、生涯スポーツとして楽しんでもいける土台を作ってあげたい。 ・クラブを法人化するなどして、指導者報酬だけで生活していける人も育つ環境を目指すべきだ。 ・学校の部活動はその種目を始めるきっかけとしての意味がある。 		○			子どもが、住む地域や家庭の経済力にかかわらず、多様な課外活動を選択できる環境を目指していくことが望ましいと考える。クラブの運営形態や方針についても多様性があるとさらに望ましい在り方になると考える。さらに、生涯学習の土台づくりとして、学校での部活動を捉え直し、「部活動をする・しない」等の選択できる環境が望ましいと考える。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【市民文教班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：部活動の地域移行について

■参加者：民間クラブ関係者等

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>⑧要望</p> <p>○数年前に市内の総合型スポーツクラブに対して、モデル事業として市から助成されていたと聞いた。どんな助成が行われたのか、内容や成果を知りたい。</p>			○		総合型スポーツクラブについて、既に存在するクラブ同士の情報共有や、これから設立を目指す団体への情報提供など、行政としても支援できる部分があるのではないかと考える。
<p>○中体連主催の大会にクラブでは出場できない種目がある。中体連主催の大会に出場するために部活への移籍が必要になるケースもある。仕組みの変更を望む。</p>			○		これまで参加することができた大会に、今後も出場する機会を確保するためには、出場要件を整理・検討していく必要があると考える。
<p>○クラブを立ち上げる際、必要な備品や道具を揃えるための初期投資に対する費用助成が欲しい。道具がないと始められない。</p>			○		部活動の地域移行を促進するためには、学校の備品活用も含めて、関係者への情報提供等が必要と考える。
<p>○スポーツクラブに対する補助金の使い勝手が悪いので、現場の声を聞いて制度を改善してほしい。</p>			○		どのような補助金制度であれば、使い勝手がよくなるのか現場の声を聞きながら、改善を要すると考える。
<p>○遠征等の移動のために、市や学校のバスを出してくれる自治体があり、鶴岡市でも取り入れてほしい。</p>			○		民間クラブの活動等に市所有のバスを使用することについて、他自治体での方針や対応状況の調査が必要と考える。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【厚生班】 令和6年8月6日（火）開催 テーマ：民生委員・児童委員から見た地域福祉の現状と課題について

■参加者：民生児童委員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>①民生児童委員に対する最近の相談内容の傾向について</p> <p>○一人暮らしをしている高齢者の方による、独居生活に対する不安や経済的な不安。</p> <p>○主婦の店 銀座店が閉店したことに伴い、近隣の高齢者が買い物難民になっている状況。</p> <p>○免許返納者に対してのフォローを手厚くしてもらいたい、利用できる公共交通機関が少ない。</p> <p>○高齢者は冷房をつけていないことがあり、熱中症への懸念。</p> <p>○認知症の症状があると思われる方の近隣住民からの相談が多い。（家族は認知症を認めたくないため難航する場合あり）</p>	<p>・学区で移動販売車（生協の移動車やとくし丸という移動スーパーなど）を活用するのはどうか。</p> <p>以下、民生児童委員（以下、民生）と厚生常任委員（以下、厚生）との質疑</p> <p>厚生：家族や親戚の連絡先は把握できているか。</p> <p>民生：「緊急カード」で確認ができる。</p> <p>厚生：認知症傾向があることを家族には伝えるか。</p> <p>民生：家族は認めたくないし、本人は言われたくないため、配慮しなければならない。</p>	○	○		<p>・認知症に対して、家族や地域が理解を深める場があると良いと考える。</p>
<p>②対応に苦慮する事案には主にどのようなものがあるか。</p> <p>○近所の方々から、精神的な問題を抱えている方やひきこもりの方とは、そもそも接点がないため、支援のあり方がわからない。</p> <p>○最近は少ないが、お金を貸してほしい旨を相談されること。</p> <p>○買い物や医者に行くための送迎を依頼されること。</p> <p>○生活が困窮していても相談しない方もおり、そういった方への支援のあり方。</p> <p>○空き家となった敷地内の管理に関すること。</p> <p>○男性の民生児童委員の場合、母子家庭宅には訪問しにくいこと。</p>		○	○		<p>・民生児童委員が抱える相談以外にも、多くの処遇困難なケースがあると思われ、市は把握したうえで、支援機関へつなぐといった対応が必要ではないだろうか。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【厚生班】 令和6年8月6日（火）開催 テーマ：民生委員・児童委員から見た地域福祉の現状と課題について

■参加者：民生児童委員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>③民生児童委員のなり手不足解消に向けて、何か提案はあるか。</p> <p>○地域の中で輪番制にする。</p> <p>○民生児童委員の選任要件をもう少し柔軟にする。</p>		○	○	○	<p>・市議会としても、民生児童委員の選任要件等を学び、なり手不足解消に向けた調査、検討を行ったほうが良いと考える。</p>
<p>④民生児童委員の活動を進める中で、つながりを深めたい団体等はあるか。</p> <p>○学校（情報共有）</p> <p>・地域懇談会を毎年開催しているが、学校側の出席がかなわないため、児童生徒に関する情報が民生児童委員に入らない。</p> <p>○企業、商工会（なり手不足解消）</p> <p>・消防団協力事業所制度のように、商工会を通して各企業に協力してもらえないか。</p> <p>○ケアマネージャー（情報共有）</p>			○		<p>・関係機関との連携については、市として、仲介役といった支援を進めたほうが良いと考える。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【厚生班】 令和6年8月6日（火）開催 テーマ：民生委員・児童委員から見た地域福祉の現状と課題について

■参加者：民生児童委員

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>⑤その他</p> <p>○民生委員が欠員となっている地区では、友愛訪問（※）をしないほうが良いのではないか。町内会長や区長が代わりに訪問している地区もある。</p> <p><u>※ 地域で見守りが必要なひとり暮らしの高齢者に対して行う地域ボランティア</u></p> <p>○民生委員の「なんでもしなければならぬ」というイメージを変えられないか。</p> <p>○年度当初の調査関係書類について、毎年民生委員が一から調べるのではなく、市から名簿をもらい、間違いがないかチェックするという形にできないものか。</p>			○		<p>・相談者の個人情報保護という点はある一方で、民生委員自身の個人情報保護や身の安全についても十分注意する必要があると考える。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【産業建設班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：林業振興について

■参加者：庄内森林管理署、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、(株)佐藤工務、(株)大和、(株)渡会電気土木、羽越木材協同組合

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>【担い手の育成・確保について】 出羽庄内森林組合： 近年は毎年数人を採用しているが、雇用条件等の理由で人材が不足している状況が続いている。人材育成の取組としては、令和4年度に人材育成計画を策定し、現場従業員は3年間の国の研修制度を活用している。労働安全や作業の効率化のための研修や資格取得のための研修を継続している。人材確保対策としては、高校生や農林大学校のインターンシップの受け入れや市の大産業まつりへの参加の他に、県の職業体験会「わくわくワーク」への参加を検討している。</p>	<p>女性の採用状況を含め森林組合の職員体制はどのような状況か。 人材の確保・育成において、林業振興を背景とした組合としての収益性の確保が非常に重要になると考えるが、木材価格や需要の状況はどうか。</p>		○		担い手確保と人材育成を図る手段として、森林環境譲与税の活用を検討いただきたい。
<p>温海町森林組合： 従業員は、事務職、現場管理、現場作業員など女性4人を含め30人程度であり、人員不足はある一方で比較的若い現場従業員が多いのが特徴である。人材確保については、農林大学校卒業生など毎年1人程度を採用しており、現場作業員については、若い従業員自らが若者を勧誘している状況である。</p>		○			
<p>温海町森林組合： 今後多くの山林で伐期を迎え、植林後に必須となる下刈り作業の増加が見込まれるが、労働力不足が懸念される。しかしながら、作業期間が限られる下刈り作業と通年雇用のバランスが難しいところである。現在、外国人労働者の採用はない。</p>		○			

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【産業建設班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：林業振興について

■参加者：庄内森林管理署、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、(株)佐藤工務、(株)大和、(株)渡会電気土木、羽越木材協同組合

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>【路網整備の実態と課題について】</p> <p>温海森林組合：大型トラック用の広い規格の路網がないと効率的な搬出ができない。市は森林環境譲与税を活用し既存林道の拡幅に取り組んでいるが、新規開設が進んでいないため、森林組合が事業主体となり補助事業を活用し整備を行っている。ただし、補助事業は単年度事業であることから、降雪地域では十分な工期が確保できず整備が進みにくい課題がある。また、組合設置林道は、災害補助事業の対象外となる点も課題である。</p>	<p>木材搬出には路網整備が必須であるが、実態はどうなっているか。</p>		○		<p>地理的条件に応じた補助率の設定や、降雪地域では必要に応じて繰越も認めるなどの柔軟な制度設計にしてほしい。</p> <p>自治体の森林面積や路網延長に応じた補助率・補助額の設定について、国・県への要望を検討いただきたい。</p>
<p>【国有林と民有林の関係について】</p> <p>庄内森林管理署：国有林では、民有林と一元的に管理できるよう共同施業団地の協定（鶴岡市に1か所あり）を結び、連携した上で共同利用が可能な路網整備を進めている。</p>	<p>国有林と民有林が混在する区域における路網整備の場合、どのような負担割合で調整しているのか。</p>	○			
<p>【木材生産と活用並びに販路の現状と将来について】</p> <p>大和：現在の住宅着工状況は減少傾向にあることから、非住宅である公共物件や特殊建築のほうに力を入れている。また、公共物件は単年度事業であり工期が限られることから、材木供給を円滑に行うために自社に製材部門を設置している。鶴岡市における公共物件については、積極的に木材を活用し、木質化を進めていただきたいし、集成材ではなく広く地域の木材業者が関われる無垢材の利用を検討していただきたい。</p> <p>鶴岡管内の大工職人は500人を切っており高齢化も影響して5年後には半減する見込みである。このままでは木材建築業に影響が出かねない。</p>			○		<p>木造住宅の建設促進のための施策の拡充や、公共物件の積極的な木質化をさらに押し進めていただきたい。</p>

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの

【産業建設班】令和6年8月20日（火）開催 テーマ：林業振興について

■参加者：庄内森林管理署、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、(株)佐藤工務、(株)大和、(株)渡会電気土木、羽越木材協同組合

参加者の主な意見等	議員の主な発言等	分類			
		I	II	III	各班からのコメント（自由記載）
<p>【販路拡大の現状と将来について】</p> <p>渡会電気土木：市は、朝日庁舎の改築事業をモデルにして、木質バイオマス導入の横展開を行うとしているが、実際は五小や庄内看護学校で活用されていない。民間への普及啓発を図るためにも、まずは公共施設での利用拡大を進めてほしい。</p>			○		販路拡大に向け、市の公共施設の木質バイオマス利用を拡大してほしい。
<p>渡会電気土木：木質ペレットの顧客は、個人消費者が8割、公共施設などの大口消費者が2割の状況。地産地消の拡大を図るためにはボイラーの導入補助金も必要である。</p>	ペレットの顧客について、家庭などの個人消費者と公共施設などの大口消費者の割合はどうなっているか。	○			
<p>羽越木材協同組合：昨今の物価高騰も相まって、住宅着工状況は減少傾向にあるため、売上は落ち込んでいる状況である。しかしながら、一般住宅向け集成材の材料となる丸太の確保は重要であることから、常に供給できる現場の体制整備が重要である。</p>		○			伐採、搬出する側の労働環境を整備するとともに、住宅材に欠かせない丸太の生産・供給体制を整えていく必要がある。
<p>【間伐の現状と皆伐に係わる課題について】</p> <p>佐藤工務：皆伐箇所は必ず再造林するようしており、再造林はほぼ補助金のみで実施できているが、下刈りへの補助金は経費の5割に留まっている。</p>			○		下刈り等への補助金の拡充継続が必要である。
<p>温海町森林組合：再造林の方法には天然更新によるものもある。組合では、林道沿いなど、木材の搬出、再造林、下刈りを考慮した条件の良い箇所を選定し皆伐を行っている。山頂などの条件の悪い林地は、広葉樹が入る隙間を見込んで荒く間伐するなど混交林や天然林に戻していく形が理想であり、今後、森林環境譲与税を活用して混交林化を図る事業が出てきてもよい。</p>			○		森林環境譲与税を活用した再造林のための補助事業が求められる。

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの